



文と写真は関係ありません。車は便利ではあるが、一歩間違えば悲惨な結果を生む事になる。

あなたの運転、いかがです？

小須戸町事故発生率ワースト記録

「県内百二十市町村ではこの住民が交通事故を起こしやすいか？」県警ではこのほど昨年一年間に県内で発生した人身事故を、原因となったドライバーの住所で分類しました。小須戸町の結果は残念ながら良くありません。なぜなのでしょう。この原因と今後どうすれば事故を起こす人が減るのか考えてみましょう。

県警が発表した結果は次のとおりです。(免許人口当たり) 〇女性事故の多さ 第四位 〇スピード事故の多さ 第五位 〇若者事故の多さ 第九位 〇飲酒運転の多さ 第十一位 〇高齢者事故の多さ 第十二位 〇事故率の高さ 第八位 (人口別事故発生率は第二位)

不名誉記録の原因は何か？

それではなぜこのような不名誉な記録が生まれているのか原因について探ってみる事にしましょう。

悪質違反別	新津管内		全県	
	件数	割合	件数	割合
飲酒事故	16	5.8%	414	3.3%
最高速度違反事故	10	3.6	370	2.9
信号無視	10	3.6	512	4.1
歩行者妨害	8	2.9	309	2.5
一時不停止	49	17.6	2,081	16.5
追越・右側通行	9	3.2	344	2.7
計	102	36.7	4,030	32.0

これは、この一時停止違反は新津警察署、県内を見ても常に上位に上げられている事故発生原因なのです。

次に表を参考に交通事故発生原因を探っていきます。この表は事故原因となった違反の内、特に悪質違反に上げられるものを全県と新津管内別に表わし

「自らの命は自らが守る」 横水地区は昨年十月、新津警察署から「交通安全対策重点モデル地区」に指定されました。

今年も小須戸名物ナイターリーグが開催された。五月七日、サブ対友交クラブは七対三で矢代田クラブが勝った。

夏はナイターリーグを見に行こう 今年も小須戸名物ナイターリーグが開催された。五月七日、サブ対友交クラブは七対三で矢代田クラブが勝った。

教育委員会よりお知らせ 平成三年度公立学校教員の採用選考検査を実施します



息抜き 常に流動している世相を、または大臣や政治家をも風刺出来る川柳を私は駄句ついています。

みんなで守ろう 交通安全 交通安全は安全確認と徐行の徹底を

あいつつ標語入選作品 声かけて 声かけられて 輪を広め

おめでとうございます 渡辺欣二さん、平間福治さん 体育協会功労賞を受賞

入門教室

六十名でスタート

（明るく・楽しく・仲良く）

今年度、中央公民館と文化協会の主催の入門教室、生花教室、手紙にきておもしろい。そとブル花教室、尺八教室、社交ダンス教室が開級しました。（民謡教室は今年八月）会員数は全部で六十名、みんな「明るく、楽しく、仲良く」をモットーに張り切っています。

写真はMOA山月ホール花教室です。開級日（四月二十日）には十七名全員出席して、コーヒーカップに生ける独特の生け花に悪戦苦闘しながらも熱心に取り組んでいました。「最初にしては上手ですね。」



真剣に取り組む参加者。だれら、仕事より一生懸命な人が言う人は？

大きく育って豊かに実れ

矢代田小田植えの実習体験

五月七日、今日は矢代田小学校全校あがりの田植え実習の日だ。午前十時天ヶ沢の国道脇にある田んぼに行ってみる。約六畝の田んぼには五、六年生が苗を植えている。最中だった。午前九時から一、二年生が植え、五、六年生として三、四年が順番に植えていく。午前いっぱいかかって田植えは終了。田んぼは子供達の声でにぎやかだった。

矢代田小学校は昨年からの児童の体験学習にと米づくりを授業に取り入れている。田んぼの提供者は天ヶ沢の斎藤一策さん。

「子供が元気に苗を植えて、稲穂が実った喜びを知って欲しい」とのこと。

このモチ米を使って、来年三月には学区内の老人クラブの方達と子供達一緒のもちつき大会を計画している。大きく豊かに実って欲しい。



催し物

ご案内

町民初心者庭球大会

期日 五月二十七日（日）午前九時受付九時三十分開始
会場 小須戸町スポーツ公園（雨天の場合中止）
種目 個人の部のみ
申込み 五月二十二日まで中央公民館（参加費無料）
主催 体協・庭球協会

第十回町長杯争奪卓球大会

期日 六月十日（日）
午前八時三十分受付
会場 小須戸中学校体育館
種目 男子団体（三人組で三シングル）女子団体（同）
男子個人・女子個人・初心者部（男女一組）
参加費 団体二百円、個人百円
申込み 五月二十五日（金）までに中央公民館へ
主催 体協・卓球協会

第五回さつきマラソン大会

期日 六月三日（日）午前八時三十分受付開始九時開会
集合 中央公民館
種目 小学生の部3km・中学生一般女子の部5km・高校一般の部10km・親子の部3km
申込み 参加費一人二百円を添えて中央公民館へ（五月十九日）
主催 教育委員会、陸協

扇部紫会おさらい会

期日 六月三日（日）
午後一時開演
会場 中央公民館三階ホール
入場無料 となたでもどうぞ
主催 扇部紫会
後援 文化協会、中央公民館外

第六回小須戸地区 楽結連合会発表会

期日 六月十日（日）
午前十一時開演
会場 中央公民館三階ホール
主催 小須戸地区楽結連合会
後援 文化協会、中央公民館

パソコン教室

仕事に遊びに使えるようになろう。やさしく教えますよ。
期日 六月十八日（月）から二

ふくろう講座

「名言に生かされて（1）」
期日 六月八日（金）
午後七時三十分から九時まで
会場 中央公民館二階会議室
お話し 松尾邦典さん（本町二）

分館催し物

ご案内

小須戸分館

「元気に早朝ウォーク」
朝を気持ちよくみながら歩こう
期日 五月十五日（火）六月十四日（木）土日、雨天除く
午前五時三十分公民館前集合
服装 軽装で帽子とタオル持参

あすなろっ子広場

「四才児となかま」
期日 五月二十三日（水）
会場 中央公民館二階会議室
「おやつをつくらう」
期日 六月十三日（水）午後一時三十分より
会場 中央公民館二階会議室
お話し 町生活改善推進委員

つくしんぼ（乳幼児の親を対象）

「子供の全面発達を求めて」
期日 五月二十三日（水）
会場 中央公民館二階会議室
「あわてない、あわてない」
期日 六月十三日（水）午前十時
会場 中央公民館二階会議室
お話し 日本赤十字・新潟県支部

ふくろう講座

「名言に生かされて（1）」
期日 六月八日（金）
午後七時三十分から九時まで
会場 中央公民館二階会議室
お話し 松尾邦典さん（本町二）

手づくりわらじで交通祈願

この館報が出る頃には保育園児のカバンにきれいなわらじが下がっているのを見る事ができるだろう。園児の交通安全にと内山ツルミさん（矢代田十一、六十八才）が手づくりで一人ひとりの園児に贈ったものだ。

安全に生かしてもらえれば...

そのりの材料は「ビニールひも」おかげで黄、赤、緑などの色々な色があり見ても結構楽しい。六cm位のぞうり二個で一組となっている。

「一日に五、六個位しかできねえ」

「子供の時近所の人からぞうりを作っているのを見させてもらった。コツはいるし根気も必要。作業に思える。今まで作った数は四百以上。矢代田小のバザー、村松の老人ホーム桜花寮などにも贈っている。作っていると手先も使うし、ボケ予防にもなるわ。アッハハハ。」



安全に生かしてもらえれば... 園児のカバンにきれいなわらじが下がっているのを見る事ができるだろう。園児の交通安全にと内山ツルミさん（矢代田十一、六十八才）が手づくりで一人ひとりの園児に贈ったものだ。

分館催し物

ご案内

分館催し物

私が殺した少女 原 泉
東京都湯沢町 日報報道部
小伝抄 星川 清司
表層生活 大岡 玲
人間を知る 安部 芳明
薔薇の名前 上下
開高健全作品 開高 健
ネコババのいる町で 瀧澤美恵子
昭和の美術 第一、二
《奇贈御礼》
文京町二、川瀬哲治さんより図書に図書を寄贈いただきました。ありがとうございます。

分館催し物

足が悪い人に向けてその人が金津の地蔵様に供えたら足が痛くなくなったというエピソードもあつたので欲しい人がたくさんいる。

「人様が喜んでくれるからうれしいうですわ」

今後は、わらじをつみたいものに挑戦したいと内山さん。その優しさは、きつとみんなに伝わることでしょう。

分館催し物

この春の鳥話水よりうまれたる杉の花を真下にだいたる坂蒼天をさえさる杉の花盛りくしゃみして答辞の続きつまつけり鴨がきてクロッカスの花食めり落日を染めて彼岸の終りけり欠けている寺の反り屋根杉の花野良猫のあくびを一つ暖かき朝よりの雨降り止まず卒業す麦青み六腑にビタミンCが充つそれぞれの手話もつ花の種を播く身の中にいまあるときの夜の沈丁よらよらと片手しかりつくしんぼう

分館催し物

春高やけぶる町裏琴の音 声高に下校する子等春の泥 今夜急や朝から窓を開け放ち 旅のバス窓一ぱいに山笑ふ 春めきてやうやく老の旅心 駅よりの帰路小走りや春の雨

分館催し物

マドンナと言えは美人と早合点 パーマだけ美しくなり帰る 未っ娘が親の欲目か七分咲き 美しい言葉の裏で爪を研ぐ 同級会白髪美人で語り合ひ 美しい見合の写真と違ふ顔 美顔法知らない母の肌のつや 美しい湧水魚の棲みつけず 頬寄せる薄紅はらが隠す棘 美人妻持って休めぬ嫉妬心 脚線美生唾をのむ老の春 一坪の庭にも花咲く春がくる みどり児の澄んだ瞳にうつる空 綺麗だと褒めた言葉が仇になり ほほえんだ遺影そのま、若くいる 旅立ちには菊に埋もれて薄化粧

分館催し物

小見キン 成田常信 玉村タネ 駒村幸世 長井武雄 我妻清作 藤井春江 栗原ひさし 松沢キヨ 高橋ただし 渡辺信子 吉田源吾 安達キヨノ 岡田良平 吉田みな 加藤米二

俳句教室

俳句教室

俳句教室

春高やけぶる町裏琴の音 声高に下校する子等春の泥 今夜急や朝から窓を開け放ち 旅のバス窓一ぱいに山笑ふ 春めきてやうやく老の旅心 駅よりの帰路小走りや春の雨

俳句教室

この春の鳥話水よりうまれたる杉の花を真下にだいたる坂蒼天をさえさる杉の花盛りくしゃみして答辞の続きつまつけり鴨がきてクロッカスの花食めり落日を染めて彼岸の終りけり欠けている寺の反り屋根杉の花野良猫のあくびを一つ暖かき朝よりの雨降り止まず卒業す麦青み六腑にビタミンCが充つそれぞれの手話もつ花の種を播く身の中にいまあるときの夜の沈丁よらよらと片手しかりつくしんぼう

俳句教室

春高やけぶる町裏琴の音 声高に下校する子等春の泥 今夜急や朝から窓を開け放ち 旅のバス窓一ぱいに山笑ふ 春めきてやうやく老の旅心 駅よりの帰路小走りや春の雨

俳句教室

この春の鳥話水よりうまれたる杉の花を真下にだいたる坂蒼天をさえさる杉の花盛りくしゃみして答辞の続きつまつけり鴨がきてクロッカスの花食めり落日を染めて彼岸の終りけり欠けている寺の反り屋根杉の花野良猫のあくびを一つ暖かき朝よりの雨降り止まず卒業す麦青み六腑にビタミンCが充つそれぞれの手話もつ花の種を播く身の中にいまあるときの夜の沈丁よらよらと片手しかりつくしんぼう

俳句教室

春高やけぶる町裏琴の音 声高に下校する子等春の泥 今夜急や朝から窓を開け放ち 旅のバス窓一ぱいに山笑ふ 春めきてやうやく老の旅心 駅よりの帰路小走りや春の雨

俳句教室

この春の鳥話水よりうまれたる杉の花を真下にだいたる坂蒼天をさえさる杉の花盛りくしゃみして答辞の続きつまつけり鴨がきてクロッカスの花食めり落日を染めて彼岸の終りけり欠けている寺の反り屋根杉の花野良猫のあくびを一つ暖かき朝よりの雨降り止まず卒業す麦青み六腑にビタミンCが充つそれぞれの手話もつ花の種を播く身の中にいまあるときの夜の沈丁よらよらと片手しかりつくしんぼう

俳句教室

春高やけぶる町裏琴の音 声高に下校する子等春の泥 今夜急や朝から窓を開け放ち 旅のバス窓一ぱいに山笑ふ 春めきてやうやく老の旅心 駅よりの帰路小走りや春の雨

短歌クラブ

短歌クラブ

短歌クラブ

春日の温くき色こそ定年の心にしむる空の辞 伊藤照溪
神字に卯月の山を降り来ぬ里の家路の暮れな 鈴木ハナ
正座して背すじ伸ばした愛犬は主の入院を黙 小林芳子
あさかげの畑に農夫は石灰を大きく撒きたり 村山文字
歩み強めて ひばりの果ありしあたりか通るたび雛の鳴く 長井利恵子
声大にびてゆく 本多玲子
いつの日か女の孫持たば晴着させ桃花活けて 本多玲子
離れりたし

短歌クラブ

春日の温くき色こそ定年の心にしむる空の辞 伊藤照溪
神字に卯月の山を降り来ぬ里の家路の暮れな 鈴木ハナ
正座して背すじ伸ばした愛犬は主の入院を黙 小林芳子
あさかげの畑に農夫は石灰を大きく撒きたり 村山文字
歩み強めて ひばりの果ありしあたりか通るたび雛の鳴く 長井利恵子
声大にびてゆく 本多玲子
いつの日か女の孫持たば晴着させ桃花活けて 本多玲子
離れりたし

短歌クラブ

春日の温くき色こそ定年の心にしむる空の辞 伊藤照溪
神字に卯月の山を降り来ぬ里の家路の暮れな 鈴木ハナ
正座して背すじ伸ばした愛犬は主の入院を黙 小林芳子
あさかげの畑に農夫は石灰を大きく撒きたり 村山文字
歩み強めて ひばりの果ありしあたりか通るたび雛の鳴く 長井利恵子
声大にびてゆく 本多玲子
いつの日か女の孫持たば晴着させ桃花活けて 本多玲子
離れりたし

短歌クラブ

春日の温くき色こそ定年の心にしむる空の辞 伊藤照溪
神字に卯月の山を降り来ぬ里の家路の暮れな 鈴木ハナ
正座して背すじ伸ばした愛犬は主の入院を黙 小林芳子
あさかげの畑に農夫は石灰を大きく撒きたり 村山文字
歩み強めて ひばりの果ありしあたりか通るたび雛の鳴く 長井利恵子
声大にびてゆく 本多玲子
いつの日か女の孫持たば晴着させ桃花活けて 本多玲子
離れりたし

短歌クラブ

春日の温くき色こそ定年の心にしむる空の辞 伊藤照溪
神字に卯月の山を降り来ぬ里の家路の暮れな 鈴木ハナ
正座して背すじ伸ばした愛犬は主の入院を黙 小林芳子
あさかげの畑に農夫は石灰を大きく撒きたり 村山文字
歩み強めて ひばりの果ありしあたりか通るたび雛の鳴く 長井利恵子
声大にびてゆく 本多玲子
いつの日か女の孫持たば晴着させ桃花活けて 本多玲子
離れりたし

短歌クラブ

春日の温くき色こそ定年の心にしむる空の辞 伊藤照溪
神字に卯月の山を降り来ぬ里の家路の暮れな 鈴木ハナ
正座して背すじ伸ばした愛犬は主の入院を黙 小林芳子
あさかげの畑に農夫は石灰を大きく撒きたり 村山文字
歩み強めて ひばりの果ありしあたりか通るたび雛の鳴く 長井利恵子
声大にびてゆく 本多玲子
いつの日か女の孫持たば晴着させ桃花活けて 本多玲子
離れりたし

短歌クラブ

春日の温くき色こそ定年の心にしむる空の辞 伊藤照溪
神字に卯月の山を降り来ぬ里の家路の暮れな 鈴木ハナ
正座して背すじ伸ばした愛犬は主の入院を黙 小林芳子
あさかげの畑に農夫は石灰を大きく撒きたり 村山文字
歩み強めて ひばりの果ありしあたりか通るたび雛の鳴く 長井利恵子
声大にびてゆく 本多玲子
いつの日か女の孫持たば晴着させ桃花活けて 本多玲子
離れりたし